

長坂

希望の朝の陽が昇る

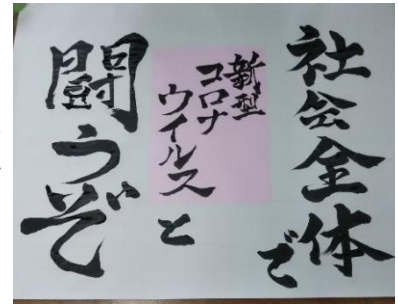
平戸市立生月中学校
学校だより 第 3号
(令和2年 5月)
文責 堀江 泰賢

【生徒信条】『今日よりは 幼心を打ち捨てて 人となりにし 道を踏めかし』

新たな気持ちで再スタート ～教育活動の再開～

緊急事態宣言が全国に拡大されたことを受けて、4月22日から臨時休業（休校）となっていましたが、平戸市内の小・中学校では、今日から教育活動が再開されました。実際には、先週5月7日（木）と8日（金）の2日間の「登校日」から、久しぶりに子ども達が登校し、休校中の家庭学習の確認や、3年生では第1回の実力テストが行われました。休校の期間中、平戸市内や生月地区では、感染の広がりがみられず、本校の子ども達も、全員、元気に登校してくれました。

しかし、学校は再開されましたが、まだ、「緊急事態宣言」は発令されたままであり、終息までには時間がかかりそうです。今後も、これまでの感染防止の取組を継続していかなければなりません。本校でも、以前お知らせした感染防止の対策を継続していきますので、ご家庭でもご理解とご協力をお願い致します。また、子どもたち自身が、感染防止のために「今、何をすべきか。何をしてはいけないのか。」を真剣に考え、判断し、感染防止のために自ら進んで行動してくれることを願っています。



(石橋先生 書)

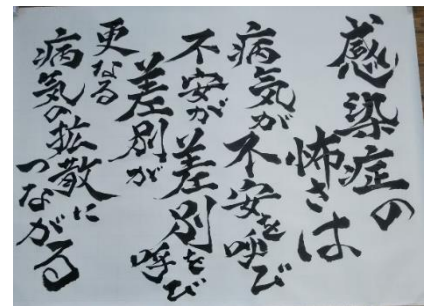
新型コロナウイルス感染症から「学ぶ」 ～自分自身で考え、議論し、行動しよう～

テレビを中心とするマスメディアでは、連日、新型コロナウイルス感染症に関する報道や情報番組が放送されており、休校中の子ども達も、中学生として、関心を持って視聴していたことと思います。報道等では、新型コロナウイルス感染症の拡大の状況やその対策としての「外出の自粛」や「休業要請」に関すること、治療薬やワクチンの開発に関すること、さらには、懸命に治療にあたる医療関係者の様子等、感染防止に向けて様々な取組がなされていることが取り上げられています。また、一方で、経済的な影響や、休業による生活の困窮、自粛要請への過剰な反応、感染者や医療従事者への差別的な行動等、マイナス面も報道されています。特に、SNSなどでは、身近な情報だけでなく、デマなどの間違った情報や、差別的な言動が多くみられるようになっているようです。

これからの変化の激しい社会を生き抜いていく子ども達にとって、今回の新型コロナウイルス感染症に関する様々な取組とそれに伴う課題は、本当の意味での「生きた教材」です。子ども達には、しっかり情報を収集し、自分自身で考え、周りの人と議論し、「自分なりの答え」を見つけて行動してほしいと思います。

先日、2年生の道徳の授業では、『「許せない 許さない」を通して人間の心理について考えよう』というテーマで、新型コロナウイルスに関する新聞記事を題材に、授業がなされていました。「負のスパイラルを断ち切るために」、子ども達がどんな行動をしてくれるか期待しています。

また、保護者の皆様のご家庭にも、新型コロナウイルス感染症に関わって、様々な影響があっているのではないのでしょうか。ぜひ、ご家庭でも子どもさんと「議論」してみてください。



(授業中の言葉から)



「当たり前」のありがたさ

5月7日から給食が再開され、久しぶりにおいしい食事をいただきました。

普段、当たり前にあるもの、できていたことが、なくなったり、できなくなったりすると、そのありがたさを身に染みて感じるものです。

給食センターでは、日頃から子ども達の健康と食育のため、栄養のバランスや衛生管理に気を配り、おいしい食事を提供してくれています。さらに、今回の新型コロナウイルス感染症対策では、今まで以上に衛生管理を徹底するとともに、休校による中断や、給食の再開にも対応していただいています。感謝したいものです。

